

小坂町総合戦略事業評価シート② 【令和3年度終了分】
(地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業)

		担当課	観光産業課観光商工班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり		
事業名	地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業 (地方創生推進交付金)	実施年度	令和3年度 (平成29年度から継続)
目的	平成29年11月に日本版DMO法人として登録された『一般社団法人秋田犬ツーリズム』を中心とし、市町村の枠を超えた連携を通じて稼げる観光地域づくりを進めている。 秋田犬を核にした観光地域づくりのブランド化を確立し、交流人口増加による地域経済の活性化と、地域社会の持続的な発展を図る。		
実施内容	大館市・北秋田市・小坂町・上小阿仁村の4市町村による地域連携DMOを形成し、函館と仙台を結ぶ周遊ルートのひとつに当地域をしっかりと位置づけることを目的とする。 「秋田犬」をフックに、このエリアにある温泉や自然、歴史遺産、食、体験などのコンテンツを積極的に発信する一方、飲食店や宿泊施設をはじめとする地域事業者が提供する観光サービスの品質向上のため、セミナーやワークショップなどを実施していくことで、観光客の来訪や滞在促進を目指す秋田犬観光圏ブランドを確立する。 将来的には、函館や仙台に海外へのゲートウェイを求め、周遊ルートの構築により外国人観光客の増加を目指す。		
KPI ※令和3年度末目標 ※広域連携全体	①旅行消費額 60,174百万円 ②訪日外国人宿泊者数 31千人 ③延べ宿泊者数 405千人 ④観光振興事業が地域に与える経済的効果 1,332百万円	KPIに対する成果 ※令和3年度末実績 ※広域連携全体	①旅行消費額 17,798百万円(見込値) ②訪日外国人宿泊者数 0.4千人(見込値) ③延べ宿泊者数 289.5千人(見込値) ④観光振興事業が地域に与える経済的効果 10,568百万円(見込値)

事業費(小坂町分 交付金対象額 交付金は対象経費の1/2) (単位:円)

	R3年度		R4年度
	予算(計画申請経費)	決算(対象経費) (交付金交付額)	予算(計画申請経費)
事業費	6,326,000	6,049,909 (3,024,954)	—

令和3年度の取り組み

<p>【ハード事業】 ○なし</p> <p>【ソフト事業】 ●観光事業 ○(株)日本経済研究所に委託し、これまでの秋田犬ツーリズムの活動が地域に与えた影響について調査を実施。 ○香港、シンガポールのオンライン旅行博においてライブ配信をするなど、コロナ禍における海外向けプロモーションを実施。 ○ANAのウェブサイトにて国内向けプロモーションページを製作。 ○市日(いちび)活性化を目的に、市日関係者や地域おこし協力隊らとワークショップを開催。市日関連のイベントへ計3回参加するなどして更なる活性化へ協力。 ○定住外国人(ベトナム人実習生8人)による、圏域のモニターツアーを実施。 ○日本版「持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」の公認トレーナーによる研修を受講し、職員3名がサステナビリティコーディネーターの資格を取得。今後もガイドラインに基づいて観光地経営を行うとともに、SDGsに関する取り組みの拡大を図る。 ○圏域内の商工会議所及び商工会の後援で、事業者向けSDGsセミナーをオンライン開催。 ○観光地域づくり法人による宿泊施設等と連携したデータ収集・分析事業のモデル事業として、全国3地域の一つに選定。宿泊データ分析システム、CRMデータ収集アプリの2事業を検証。</p> <p>●法人運営 ○男鹿、かづの、あきた白神といった県内DMOのほか、十和田奥入瀬、八幡平、VISITはちのへなど北東北3県のDMOとも連携。情報交換会の開催や土産品の開発、レンタカー周遊促進事業などを実施。 ○外部専門人材の知見を活用し、アクティビティコンテンツの開発・ホスピタリティの強化など、受け入れ態勢の整備に取り組んだ。 ○秋田犬をフックとした持続可能な観光地域づくりを目指すため、秋田犬の保護と保存を目的とする秋田犬保護団体「ONE FOR AKITA」と連携し、寄附サイトを制作。 ○全国約300のDMOの中から、37の重点支援DMOの一つとして令和2年度に引き続き選定。県内唯一。国の事業に関し、観光庁から積極的なバックアップを得られる。 ○東北観光推進機構より、令和2年度中の「コロナ禍における地域連携 DMO としての取り組み」が評価され、エリアの観光振興を通じた地域の活性化に尽力貢献したとして「フェニックスアワード 2020」を受賞した。東北・新潟エリアで2団体が選ばれた。</p> <p>●物産事業 ○井村屋グループ(株)と連携し、朝採れ枝豆を使用した「秋田の枝豆あんトッピング」を開発し、令和3年8月から発売開始。 ○小坂まちづくり(株)と連携し、「秋田犬ワイン」を開発し、令和4年2月に発売。 ○中小企業庁の補助事業を活用し、昨年度に続き、生の枝豆をシンガポールへの輸出。現地の大手ECサイトを活用して販売を実現。さらに、枝豆に続く地域の食材の輸出を目指し、地域の特産品である「とんぶり」と「枝豆加工品(ペースト・パウダー)」の輸出に向けた取り組みを実施した。 ○同事業では「鶏めし弁当」のフランス展開にも協力。駅弁文化の定着を目指すとともに、地域産品のマーケティング調査を実施。構築された同国への販路を活用し、更なる地域産品輸出の可能性を探った。</p>

今後の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大により旅行需要が激減し、外国人観光客に至っては入国すら叶わない状況が続いていたが、国内旅行需要は回復の傾向がみられ、外国人観光客の受け入れについても緩和されるなど、需要増の兆しがみられる。
 改めて外国人観光客の誘客を目指すにあたり、近年の観光の動向としては、観光目的地選定の要因のひとつとしてサステナビリティが挙げられ、特に外国人観光客や修学旅行・教育旅行においてはその度合いが高くなっている。そのような傾向がみられる中で、当エリアは鉱山技術を活かしたリサイクル産業が盛んな地域であり、また、エリア内には十和田八幡平国立公園や「北海道・北東北の縄文遺跡群」のひとつ伊勢堂岱遺跡を有しているほか、狩猟文化＝縄文を連想させる「マタギ」や、隣接には世界自然遺産の「白神山地」を有している。リサイクル産業の観光活用について現状では施設見学等に限られるが、当地域の雄大な自然や歴史的背景を組み合わせることにより顧客体験の向上に大きな余地を残していると考えられ、コンテンツを磨き上げ、組み合わせることで、エコツアー等の新規顧客獲得の可能性を大いに秘めている。
 観光消費額(消費単価)をあげる新たな戦略が必要な今、当エリアの強みである自然や古の先人による世界遺産、リサイクル産業などの地域に根差したサステナブルな取り組みを、レジャー観光だけでなく教育、企業研修等様々なニーズに合わせ再編集し、付加価値を向上させることで新たな稼ぐ観光の構築を目指す。

◆担当部署自己分析

妥当性評価	14	有効性評価	12	効率性評価	12	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4	38 / 45	A 非常に効果的であった
町民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	4		
目的・対象は妥当か	5	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4		

※評価基準：1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である
 ※担当部署での評価【達成度】：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	13	有効性評価	12	効率性評価	12	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4	37 / 45	A 非常に効果的であった
町民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	4		
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	4		

※評価基準：1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である
 ※地域創生本部での評価：A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町振興計画審議会による客観的検証

意見		評価
・広域連携による多様な視点やネットワークを活用することにより、一定の成果を挙げたと認められる事業である。 ・一方で、事業の多くは中心市が実施したものが多く、本審議会においても小坂町の関与をより深めてほしいという意見も出されたところであり、引き続き関係市町村及び関係団体と緊密な連携に努めること。 ・本事業は終了したもの、地域連携DMO秋田犬ツーリズムを主体とした事業は令和4年度以降も別事業として実施されているところであり、より多くの町民から共感が得られるよう周知の手法を検討すること。 ・新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、単に旅行者を増やす施策を講じるのではなく、より多くの人に当圏域の魅力を知ってもらい、観光資源や地場産品を持続的に応援してもらえるよう努めること。		A 本事業は、小坂町総合戦略のKPI達成に有効であった

※審議会での評価：A-本事業は、小坂町総合戦略のKPI達成に有効であった B-本事業は、小坂町総合戦略のKPI達成に有効ではなかった